西村証券

2026年10月16日 発行

チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第133回「日経平均株価の変動率」

昨年末から先週末まで、日経平均株価は37.1%上昇しました。米国トランプ政権のベネズエラやイランへの軍事作戦やロシアのウクライナ侵攻の継続など地政学的なリスクは高まっているにもかかわらず、日経平均株価は大きく上昇しています。今週は日経平均株価の変動率についてお伝えします。

～日経平均株価の変動率～

日経平均株価の変動率として、日経平均VI（日経平均ボラティリティー・インデックス）に注目しています。この指標は、今後30日間の日経平均株価の変動率について、投資家がどのように考えているかを指数化したものです。この数値が大きいほど、今後の値動きが大きいと見込まれていることを意味しています。一般的に株価が大きく下落する局面で投資家の不安が増大し、この数値が大きくなるため、この指標は「恐怖指数」と呼ばれることがあります。この指標と日経平均株価の動きを見てみましょう。裏面グラフ1をご覧ください。

このグラフの黒い折れ線は日経平均株価の引け値の推移を示しています。期間は昨年末から10月9日までです。オレンジ色の折れ線は、同じ期間の日経平均VIの動きを日次で示しています。日経平均株価は左目盛り（円）、日経平均VIは右目盛り（Pt）です。このグラフを見ると、黒の日経平均株価が大きく下落した2月末から4月上旬にかけて、また6月下旬から8月初旬にかけて、オレンジの日経平均VIは大きく上昇しています。日経平均VIが「恐怖指数」と呼ばれる理由が分かります。8月上旬以降は日経平均株価の戻り局面で日経平均VIは急速に下がっていきました。特に際立ったのは9月2日（①緑の破線参照）に日経平均株価が前日から▲1,889.70円の大きな値下がりとなったにもかかわらず、日経平均VIが前日比▲0.43Ptの25.55Ptとなったことです。株価が大きく下がったにもかかわらず、日経平均VIはほとんど動きませんでした。私は2020年4月から日経平均VIを見てきましたが、このような動きは初めてでした。その後、日経平均VIはおおむね右肩下がりの動きとなり、今年前半より落ち着いた動きに変わってきていると思います。

～今後の株式市況を考える～

今後の株式市況動向につきましては、不安定ながらもAI・半導体関連需要拡大の経済下支え効果によって業績が伸びる企業や世界経済の緩やかな成長を享受する企業などを中心に物色される展開になるのではと想定しており、中東情勢の一層の混乱がなければ、日経平均株価は来春までに最高値を更新する可能性もあると考えています。今後も日経平均VIの動きや企業業績動向に注目しながら、国内株式市場動向を注意深く見ていく所存です。

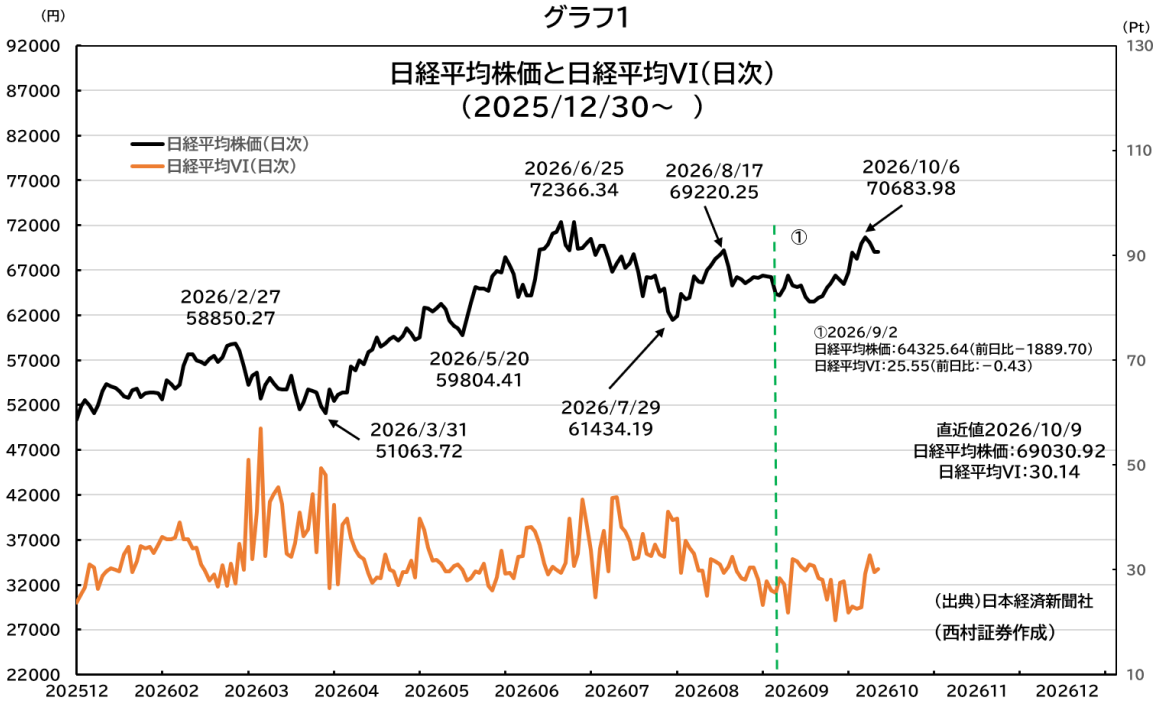
西村証券株式会社　NISHIMURA SECURITIES CO., LTD.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL：075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者　近畿財務局長(金商)第26号
加入協会：日本証券業協会　主な事業：金融商品取引業
指定紛争解決機関：特定非営利活動法人　証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したものではなく、あくまで情報提供を目的とした書面です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の承諾なしに、第三者への配布・複製等はお控えください。

西村証券

グラフ1



本書面の著作権は当社に帰属します。当社の承諾なしに、第三者への配布・複製等はお控えください。